

栄冠を手にするまでに・・・桂川町野球スポーツ少年団

日々の努力が実る



常勝軍団 桂川町野球スポーツ少年団

真夏の日差しが顔を見せた8月1日から3日までの日程で、福津市において「第24回福岡県少年軟式野球大会（TNCテレビ西日本、西日本新聞社主催）」が開催されました。

最終日に、福津市のウエルサンピア福岡で行われた決勝戦で、初回到4点を先制して主導権を握った、桂川町野球スポーツ少年団が、柳川城内ボーイズ（柳川市）を7ー3で下し、初優勝しました。

また、8月14日から16日に筑紫野市で開催された「第31回稲尾杯少年野球大会（筑紫少年野球サンデーリーグ連盟主催）」では、決勝戦、大野城少年野球（大野城市）に1ー0で惜しくも敗れたものの、準優勝しました。

現在、大リーグのイチロー選手の活躍などもあってか、少年野球チームで頑張る子どもたちは増えています。各チーム、監督やコーチの指導のもと、様々な特徴をもったチーム作り、子どもたちの健全育成に取り組んでいます。

桂川町野球スポーツ少年団 栄冠を手にするまでに・・・

桂川町野球スポーツ少年団（以下、桂スポ）ができたのは、今から26年前。子どもたちは、昔も今も変わらず、毎日、学校が終わると町民グラウンドで日が暮れるまで、野球の練習に打ち込みます。

田中監督にズバリ、なぜ桂スポが強いのか話を伺いました。

桂スポの強さの秘密、それは、子どもたち自身がその場その場で、最良の結果が出せるよう考え、取組むからだそうです。

実際、試合中に監督がサインを出すことはありません。盗塁やスクイズ、ヒットエンドランなど、すべて子どもたち自身が、その場面で最良の行動を考えプレーします。様々な場面で、皆が同じ方向を向いたプレーが出る練習を毎日やっている結果だそうです。

野球はチームプレイ。野球の真髄を幼い頃から身にしみこませることの繰り返しですが、今日の常勝軍団・桂スポを作っています。